

# さいたま市：さいたま発の公民学によるグリーン共創モデル

脱炭素先行地域の対象：公共施設群、埼玉大学キャンパス、芝浦工業大学大宮キャンパス、地域共創エリア(美園地区)、中央区再編エリア

主なエネルギー需要家：公共施設群590施設、埼玉大学キャンパス70施設、芝浦工業大学大宮キャンパス20施設、イオンモール浦和美園、スマート・コミュニティ街区159戸 等

共同提案者：埼玉大学、芝浦工業大学、東京電力パワーグリッド株式会社埼玉総支社

## 取組の全体像

全公共施設、2大学、浦和美園地区の商業施設・モデル街区など多様な大口電力需要家が、各施設等に**太陽光発電設備等を設置**するとともに、事業者と連携した**EMSによる需給管理のもと系統最大効率化を図りつつ、新設のごみ発電、市内外のフロート太陽光、卒FIT電源など多様な再エネ電源を活用し「公」「民」「学」の脱炭素化**を図る。また、公共施設等の脱炭素化と連携し、市域全体で展開する**再エネを活用したシェア型マルチモビリティサービス**（小型EV、EVスクーター、バッテリーステーション等）の大規模拡大を図る。

### 1. 民生部門電力の脱炭素化に関する主な取組

- 公共施設群、埼玉大学キャンパス、芝浦工業大学大宮キャンパス、地域共創エリア、中央区再編エリアで、以下の取組を市が中心となり連携実施
  - 市内公共施設の屋根や駐車場等に**太陽光発電設備(2,000kW)や蓄電池を設置**し、自家消費
  - 大学敷地内に**太陽光発電設備(最大2,500kW程度)や蓄電池を設置**し、自家消費
  - 市内外のフロート太陽光発電によるオフサイトPPA(12,600kW)
  - ごみ発電を設置し、公共施設への自己託送等
  - 商業施設の駐車場や屋上に**太陽光発電設備(2,000kW)を設置**し、自家消費と地域供給を推進
  - 街区内の**全住宅に太陽光発電設備や蓄電池を設置**、自家消費

### ② 5つの脱炭素先行エリア全体でエネルギーマネジメントを実施

再エネ事業や配電ライセンス事業を見据えた事業・運営体制の設立を検討し、都市型EMS (CEMS) 実証やVPPを実施

リソースアグリゲートのオープンPF (VPP形成)



### 2. 民生部門電力以外の脱炭素化に関する主な取組

- 市域全体において、**地域再エネを活用したシェア型マルチモビリティサービスを導入拡大**（ステーション 約500カ所、アシスト自転車 約3,000台、EVスクーター 約200台、小型EV 60台を導入）等

### 3. 取組により期待される主な効果

- 都市エネルギーモデル（エネルギーの地産地消等）の構築、ゼロカーボンドライブの推進、ナッジの活用等その他の取組の推進による**域内経済循環・レジリエンスの強化、暮らしの質の向上、市民の環境意識の向上** 等

### 4. 主な取組のスケジュール

	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	...	2030年度
再エネ供給		屋根置き太陽光発電設置・運転				
事業性・体制検討			調整池等への太陽光発電設備設置 (毎年度順次設置・運用開始)			
事業性・体制検討				カーポートへの太陽光発電設備設置		
			ごみ発電活用開始	EMS導入	VPP形成	
シェア型マルチモビリティ			システム等の開発・検討			
			各種モビリティの導入			
			ステーションの導入・拡大			